

氏 名	渡會 睦子
所 属	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻
学 位 の 種 類	博士（健康科学）
学 位 記 番 号	健博 第 114 号
学位授与の日付	平成 28 年 3 月 25 日
課程・論文の別	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題名	山形県における中学・高校生を対象に「生きるための心の教育（性教育）」教材を用いて行った教育介入と人工妊娠中絶率および性感染症発生率の低下との関連に係る生態学的研究
論文審査委員	主査 教 授 猫田 泰敏 委員 教 授 菊池 吉晃 委員 名誉院長 林 謙治（国立医療保健科学院名誉院長）

【論文の内容の要旨】

近年、わが国では性行動の低年齢化とともに若年層の妊娠、人工妊娠中絶や性感染症が問題になっているが、性の問題は地域においてタブー視されやすく、対策が遅れているのが現状である¹。私は、1996年より人工妊娠中絶・性感染症などの性問題について山形県教育委員会等と協働した実態調査・教育介入を実践し²、1999年からは、山形県保健所保健師およびNGO代表として、通算500回程の講演会などを実施してきた。その講演時に使用していた教材を元に、「生きるための心の教育（性教育）」教材を開発し³⁴⁵、性問題を予防していく性教育プログラムとして確立していった。その教育教材とプログラムを用いて山形県内の小学・中学・高校生に対し、広範に教育介入を行った。それらの教育介入後、15歳以上20歳未満の人工妊娠中絶率（年齢階層別女子人口千人対）は2000年18.3全国6位から2008年5.0全国44位、性器クラミジア感染症は定点あたり2000年8.8から2005年4.4に低下した⁶⁷⁸⁹。しかし、この人工妊娠中絶率・性器クラミジア感染症発症率の低下が、「生きるための心の教育（性教育）」教材を用いた教育介入の効果であるか否かについて、疫学的検討は行っていない。そこで本研究では「生きるための心の教育（性教育）」とプログラムを用いた教育介入と人工妊娠中絶率・性感染発生率の低下の関連について疫学的に明らかにすることを目的とした。

結果

1.山形県の人工妊娠中絶率の年次推移と他都道府県との比較分析

1) 15-19歳 人工妊娠中絶率

山形県の1997年は人工妊娠中絶率の高い県から数え全国7位、1998年は3位であった。2008年には中絶率の低い方から数え4位であり、1999年の1/3にあたる5.0まで低下していた。10年間で急激に1/3にまで減っており、主成分分析からも山形県は近隣県と比較し2003年以降の人工妊娠中絶率の減少傾向が強く出ていると考えられた。2003・2005年に主成分の強い影響を受けていたが、2003年山形市教育委員会より、私の作成した山形市全小中学校へ「小学生・中学生用『生きるための心の教育(性教育)』教材」が全学校へ配布、2005年ごろの山形県教育委員会を通した「中学校・高校における『性といのちの学習』の手引き」とともに「中学・高校生用「生きるための心の教育(性教育)」教材」を配布した時期とも重なり、性教育との関連が考えられた。

2) 20-24歳 人工妊娠中絶実施率

20-24歳の人工妊娠中絶実施率においても、1997年は全国で高い方から7番目に高かったが、2009年には全国で低い方から9位になり、約1/2に減少していた。主成分分析などの結果、2004年(平成16年)ごろから、5-19歳と同様に急に低下しており、過去の性教育との関連があると考えられた。また、15-19歳における人工妊娠中絶率の強い減少傾向よりも一年ほど遅く見られることから、教育を受け卒業していった年齢層も影響を受けているのではないかと考えられる。20-24歳山形県二次医療圏別人工妊娠中絶率でも、村山地域では、2003年ごろより急激に低下しているが、他の庄内地域や置賜地域などが上昇している。講演回数が多い、村山地域から効果が先に表れていることが考えられた。

3. 「生きるための心の教育：性教育」を用いた教育介入の累積・コホート受講割合

中学3年生から高校3年生までの累積受講割合では、中学3年生であった生徒が4年後の高校3年生までの間に、受講する割合を求めた。2000～2002年(平成12～14年)に中学3年生であった村山地域の生徒は50%を超える受講率であり、他地域の倍近くの受講率であった。村山地域の2002-2006年ごろの人工妊娠中絶率の低下は、これらの受講割合の高い年と重なるため、「生きるための心の教育：性教育」を用いた教育介入効果が表れていることが予測された。

4. 山形県性器クラミジア感染症定点調査報告患者数年次推移の他都道府県との比較

1999年(平成11年)の山形県は15-19歳の性器クラミジア感染症の定点あたりの報告数が、全国で8位であった。人工妊娠中絶率が高ければ、避妊に用いるコンドームなども使用できていないことも考えられ、自ずと性感染症も多いことはつながってくると考えられた。

本研究では、「生きるための心の教育（性教育）」教材を用い、山形県における中学・高校生を対象に「生きるための心の教育（性教育）」教材を用いて行った教育介入と人工妊娠中絶率および性感染症発生率の低下との関連に係る生態学的研究として分析した。

本研究により、人工妊娠中絶率・性器クラミジア感染症発症率の低下は、「生きるための心の教育（性教育）」教材を用いた教育介入の効果であることが疫学的に明らかにされた。

今後は、これらの教育教材・普及方法を広め、若年層の性問題の予防に活かされるよう邁進したい。

-
- 1 熊本悦明：10代の若者における性感染症の大流行, 94(4), 404-414, 2007.
 - 2 渡會睦子. 小・中・高等学校生における性の実態と教職に見る性教育の現況. 日本性科学会雑誌, 2003;21. No1. 39-45.
 - 3 渡會睦子. 性(生)教育プログラムと教材(高校生用教材). 東京: 日本家族計画協会 2006.
 - 4 渡會睦子. 性(生)教育プログラムと教材(小学生用教材). 東京: 日本家族計画協会 2005.
 - 5 渡會睦子. 性(生)教育プログラムと教材(中学生用教材). 東京: 日本家族計画協会 2005.
 - 6 渡會睦子. 効果的な性(いのちの)教育教材の開発と活用-生きるための心を学ぶ、性(いのちの)教育を目指して-家族と健康, 日本家族計画協会, 2006;N0629:4-5.
 - 7 厚生省大臣官房統計情報部, 保健・衛生行政業務報告: 衛生行政報告例, 東京.
 - 8 厚生省大臣官房統計情報部, 平成8年-平成16年厚生統計協会, 母体保護統計, 東京,
 - 9 厚生統計協会. 山形県児童家庭課, 人工妊娠中絶件数, 山形, 2006.